

(別紙4)

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400229
法人名	株式会社グリーンケアは一ねす
事業所名	ケアは一ねす出雲
所在地	島根県出雲市大津町289番地
自己評価作成日	平成22年1月27日
評価結果市町村受理日	平成22年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigoivouhou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道脇の田畑に囲まれた住宅地に位置し、市街地に隣接して生活に便利なところに事業所はある。
地域の人的、物的 社会資源を活用しようとする当事業所は、「家族での介護」から「社会全体での介護」をめざし、各町内から通ってくる利用者それぞれの生活圏域に応じ、地域とのつながりを求めて、昨年度に引き続き積極的に地域の人々への働きかけを行ってきた。結果として地域との交流の柱である地域ボランティアとの連携は、設立後2年目に大きく膨らむ結果となった。
楽しみごとや外出なども、その日その都度の意向や希望、体調に応じて柔軟な生活支援を行っている。
ケアに関しては、利用者の笑顔を追求するため、「共に過ごし支えあう関係」という点に力を入れてきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地に位置しているが、周囲には田畑も多く残っており散歩等の外出には適している。またスーパーや商店街も近く、生活の利便性も高い。
事業所内に置かれた車椅子等の福祉用具は、小規模多機能居宅介護の事業所とは思えないほど整備されており、質も高い。
地域との関わりは、事業所が力を入れているだけあって、地元の祭りへのや、地元公民館や保育園、小学校などの行事参加、事業所の行事に地区住民を招聘するなど関わりは深く、事業所での行事のチラシを地元にもポスティングするなど、地域啓発への取り組みも積極的であり評価に値する。
また、利用者個々のアセスメントやモニタリングを通して、得意なことややりたいことを日々の生活の中に取り入れることで、利用者一人ひとりが事業所内で自分の役割を持った生活を見ることができた。
調査の際は設置者の立会もあり、事業所全体でより質を良くしていこうとする姿勢を強く感じることができ、また職員のヒアリングからは、利用者に対する“思い”が感じられ、調査日に見た支援場面からは良好な関係を窺い知ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用前に事業所の理念についてよく話し、賛同・共感できた人に来てもらうようにしており、理念は管理者が自ら毛筆書きしたものを事業所内に提示している。	地域密着型サービスとして、「住み慣れた地域で、ご利用者様とご家族様の自分らしい生活を支援します」という明確な理念が作られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のように、野菜や海産物等の差し入れがあり、散歩時等に地域の人利用者に手を振り挨拶を交わす日常的な交流を始めとし、クリスマス会・花見・餅つき等地域住民やボランティアが参加しての恒例行事もある。	近隣の住民からの支援もあり、事業所で開催される季節の行事等の案内を、近隣の各戸へ配布して参加を募ったり、近隣の公民館や病院、福祉施設での行事に出掛けるなど、地域と積極的に関わろうと取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の一環として、子供SOS、散歩中の方のトイレ・飲水等によって、学童をはじめとして、一般の方が誰でもいつでも立ち寄れるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議では、利用者状況やサービスの現状等、改善計画の実施状況を報告し、そこでいただいた助言・アドバイスをサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催され、利用者の様子や事業の報告が行われるとともに、地域との連携や利用者の状況に応じた支援のあり方などについて、出された意見を事業運営に反映させており、事業所と運営推進会議との連携も良い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の運営推進会議担当者やそれ以外の方にも、事業者からの積極的な情報提供を行ない、課題解決のための理解や支援を報告し助言や指導を得、事業の改善に成果が得られるように取り組んでいる。	市の担当部署には事業所から運営などについての情報を提供し、意見や理解を求めてケアの向上に役立てるなど、積極的に連携に取り組んでいる。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を周知しており、利用者の見守りを徹底している。 利用者が無断で外出する際にはさりげなく見守りなどし、行動を制限しない自由な暮らしを支援している。	マニュアルも整備されており、研修会も開催され、身体拘束をしないケア提供への意識は高く、身体拘束は一切なされていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待は一切しないよう徹底を図り、在宅においては、家族と話し合う機会を設け、状況や悩みなどを聞き問題解決を図っている。内容によっては地域包括支援センターともカンファレンスを行いながら支援している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部講師を招聘しての事業所内研修、外部研修に参加し理解を深めている。 また、利用者・家族にも説明を行い支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人や家族に事業所の援助内容、変更事項等も説明し、理解・納得していただき、意向・要望等も聴取したうえで署名・捺印をもらっている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週1回以上は必ず自宅を訪問し、また、電話連絡で家族の意見や要望を聞くようにしている。 連絡帳に家族欄を設け、その内容を申し送りノートに記入、ミーティングで話し合いを行いサービスに反映するように努めている。	家族からの、意見や苦情は、職員会議やミーティングで話し合わせ、課題解決について職員全員で取り組まれており、事業所運営に反映する仕組みが構築されている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートの活用を始め、事業所の会議で職員からの意見や提案を聞き、サービス向上に活かすよう努めている。	日々の日報、各種会議の記録等により代表者や管理者には報告がなされており、その内容を運営に反映させる仕組みが構築されている。	代表者や管理者は、地域密着型サービスの本質や役割を念頭に置き、事業所として何をすべきかを考えた時、利用者の状況等を良く知る職員の意見を聞き、運営に反映させる積極的な取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から小規模の利用者対応の必要性を職員に理解してもらうよう努めるとともに、緊急時に対応できる職員を確保し協力を得られるようにしており、勤務シフト見直しやスケジュールの調整等の相談には随時応じている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加のときのシスター制度の取組みを始めた。 加えて月1回の職員間同士の勉強会へも、出来る限り多くの職員が参加できるよう勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の見学や交流行事、全国や出雲市の事業者連絡会への入会や参加を行い、様々な活動を通じて知り得た同業者との情報交換を行うようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し、今何がしたいか、どこで終末を迎えたいのかといった将来に渡っても安心して生活ができるよう話し合い、何でも相談できるような信頼関係を築き上げるよう努めている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問し、何でも相談できるような信頼関係を築き上げ、今どうしたいか、どこで終末期を迎えたいかなど、将来の事を見据えて利用が安心して生活ができるような関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者宅を訪問し何でも相談できるような信頼関係を築き上げている。 連絡ノートの見解を大切にし、全職員が信頼関係が持てるよう事細かに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、自宅近くへの外出の提案を受けて、一緒に外出して利用者が案内役を務めたり、利用者が持参した、自宅の庭の花木を、皆で生け花をするなど、利用者と職員が対等に関わりながら過ごせるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができる事、事業者ができること等お互いに確認しながら一緒に計画を立てている。 訪問や電話連絡を行い、家族とも密接な信頼関係が構築できるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が途切れることがないように、地元商店への買物や地域文化祭運動会への参加や散歩など、地域への外出の機会を設けており、また、近所の人々が気軽に訪ねられるような関係作りをしている。	利用者の生活歴等はアセスメントで把握され、地域密着型サービスであるということを念頭に置き、それまでの地域等との関係性を重視した支援がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔見知りの利用者が殆どなっている現状であり、加えて孤立することのないようグループ分けケアを行っている。 職員が間に入り共通の話題づくり、ゲーム等で利用者同士が関わりあうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に電話連絡や訪問などを行ない、関係を断ち切らないように努めている。 元利用者・家族等を事業所の行事案内を行い、参加してもらえるようにしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	訪問の都度家庭での生活を見据えるようにしており、利用者一人ひとりの希望、意向の把握に努め、それに応じた声掛けや接し方をするように心掛けている。	利用者、家族とも常に話し合いを行っており、その日の利用者の様子からも、思いや意向が捉えられ、ケアへの反映に努めていることが窺えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの人生・生活歴・性格・生活環境やキーパーソンの重み、今までの暮らしぶり等の商法把握に努めている。 利用者に関する新しい情報などは職員間で共有するように心掛けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	送迎時等に身体・精神状態など話し合い職員全員が把握できるように努め、状態等に変化があった場合は早急に対応、ケア内容や介護計画の見直しを行っている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直し時、また利用者の状況等が変わった場合、アセスメントをしっかりと行い、本人や家族、主治医と話し合い、ミーティングで協議・検討し新たな介護計画を作成している。	あくまでも住み慣れた自宅で生活していくことを大前提に置き、本人や家族等との面談を通し、情報収集、分析を行い、課題を把握し、暫定のケアプランを策定、ケアカンファレンスを通して、チームで介護計画を作成、共有化して		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員等日々の実践記録を生かし、ミーティング、ミニ勉強会において一人ひとりの利用者について気付いた点等を話し合い、個人支援経過に記録するとともに、情報を共有し介護計画の見直しやケア提供を行なっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭での生活の在り方を基本とし、家族の容体の急変等により当日の泊りの依頼があったり、通いの利用者の体調変化があった場合など、夜間に電話や訪問して様子を伺ったり、急な時間延長にも柔軟な対応をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の協力を得て夏祭りや文化祭等の行事を手伝っていただいたり、幼稚園や小学校の児童にも利用者とはふれあいの協力をお願いをしたり、ボランティア教会の方々等に地域交流のサポーターになってもらっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	了解のもと利用者のかかりつけ医に直接連絡をして連携を取りながら、事業所でも薬管理や通院介助等を行なうことで適時に適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望の病院に職員も同行して、健康状態の把握に努めている。難病などの利用者にはかかりつけ医とのテレビ受診の機能を活用しており、送迎も含めて事業所に対応するなど、利用者、家族の利便性を図っている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 一方、他職種の職員との連携を図り、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は定期的に見舞いに行き、担当医や看護師等との情報交換や相談に努め、退院前カンファレンスにも参加依頼をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向に添うことを大前提とし、かかりつけ医や協力医、職員間で意思統一を図り、家族と相談しながら全員で方針を共有しサービス提供を行っている。	利用者、家族との話し合いのもと、家族や職員が泊まり込んで看取りを行った実績もあり、難病や特定疾患の利用者も受け入れているなど、重度化した利用者への支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えてマニュアルを作成し、勉強会をしている。ミニ勉強会やミニカンファレンス等で看護師より応急手当や初期対応の仕方等を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風の接近や積雪に備え、家族に連絡を取って、利用者の状況を確認したり、ニュース等でいち早く状況把握を行い、職員体制を増員して被害が発生しないよう、また被害を最小限に留めるように支援をしている。	火災警報装置を取り付け、警備会社に24時間の警備保障を業務委託し、火災報知器の検査時に、利用者、職員に注意を促しており、避難訓練も行なわれている。また災害時の利用者支援の体制も構築されている。	いつ起こるかもしれない緊急事態に的確に対応できるスキルを全職員が習得し、対応ができるよう、消防署の協力を得ての救急救命講習の開催や、マニュアルの整備等、更なる改善に向けての取り組みと体制強化を期待したい。

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし、言葉使いや対応について注意しており、個人情報については厳重に管理している。	衣服の乱れや汚れがあればそつとカバーするような対応がなされ、排泄介助の際もプライバシーが守られ、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って適切な声掛けがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せる環境づくりに努め、本人の話を傾聴している。 毎日症状によるカテゴリ担当ケアでレクやリハビリを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ない事を押し付けるのではなく、一人ひとりの能力に合わせて対応している。 出来るところは自分でしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際は、行き場所を話し、本人に気に入った服を選んで貰ったり、髪を梳いたりしてもらっている。 泊りの人はモーニングケアの励行で洗面所に案内し、洗顔や髪の毛のセットをして身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週土曜日は一緒に準備や調理、片付けを行なってもらい、昔の作り方を習ったりしている。 千切り大根作りやホットケーキ、お好み焼きや焼き芋作り等、利用者の希望に添うよう努めている。	配膳やテーブル拭き、片付けなどできる利用者には希望に基づき行ってもらっており、食事中は介助する側とされる側といった雰囲気はなく、利用者主体を念頭に置いており、雰囲気も和やかであった。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示のある方に対しては、管理栄養士の指示により治療食にて対応し、食事摂取量を記録し指示医に報告している。また水分摂取量の記録を行い、必要な方に対しては飲み物や飲みやすいコップ等の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には嚥下体操を行ない、食事後は入れ歯の洗浄、残存歯の歯ブラシ、うがい等口腔ケアを施行している。 歯科受診時には歯科医師、歯科衛生士による個別の指導、アドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各々の利用者の排泄リズムを把握し、失敗のない様に定期的にトイレに誘導し、気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄チェック表などから利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員が把握、適時に誘導することによりトイレで排泄できるように支援している。また利用者の身体機能等に応じたケア提供がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、便秘3日間を基本に腹部マッサージによる腸の運動活性を高めるなどの支援や、腹囲測定や食事摂取の様子観察を通して、課題等があった場合、残渣物の少ない副菜やミキサー等工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴が作業的なものにならないように、一人ひとりの体調に合わせて行なっている。拒否のある利用者に対しては、入浴剤の導入や柚子湯、また声掛けに工夫するなどし入浴していただくよう支援している。	入浴の時間帯は決められておらず、利用者は希望の時間に入浴することができる。2つある浴室の一方(個浴)は窓の無い構造になっており、利用者から落ち着いて入浴できると喜ばれている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと睡眠がとれるようペットボトル仕様の湯たんぽやビーズクッションを導入したり、常に用具を見直し、気持ち良く休息が取れるようにしている。また不眠傾向の利用者にはハーブを使用するの足浴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を提供していただき、用法と用量を守って服薬していただいている。 また副作用や服薬後の状態確認等に関する勉強会も設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のしたい事を聞き、役割を持っていただきその人らしく過ごせるように支援している。 また刺身づくりやそば作りなど、利用者の特技を生かした昼食づくりを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	商店街やスーパーに買い物に出掛けたり、イベントの参加や展示会等にもよく参加している。名所めぐりドライブでの名物を食する機会も作っている。	利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近所への散歩等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されており、外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で品物を選択し、自分の財布からお金を出し品物を買うといった日常行為がその人らしさの構築にもつながるとも考え、家族から了解も得て、外出先での支払いなどは本人に行ってもらっている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	使用可能な利用者には個人の携帯電話を使ってもらっている。また、電話を希望された時は事業所電話で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハーブを花瓶に生け香りで癒しの時間を作っており、季節感が感じられる生け花を飾っている。	共用空間は、採光、空気とも配慮されている。季節の花や、アンティークな調度品が家庭的で落ち着いた雰囲気醸しだしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の利用者によりテーブルやイス、ソファや骨折予防マットを使用し、自宅に近い環境づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの際は普段着なれたパジャマや寝間着を準備してもらい、ベッドや布団も工夫している。	小規模多機能型サービスであるので、利用者専用の部屋はないが、事業所が準備している家具などが、家庭的で落ち着いた居室空間を作っている。泊まりの利用者は私物を持ち込んでおり、落ち着いて過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力を活かせるよう、すべてをバリアフリーにすることとせず、ある程度の段差など設けており、混乱や失敗を招くような状況になれば、直ぐに改善するように努めている。		

(別紙4)

2. 目標達成計画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所
ケアは一ねす出雲

作成日: 平成 22年 3月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	ケアにあたり基本的なバイタルサインをどう正しく読んで、正しい病態をとらえる術を会得する	バイタルサインの見方・読み方	バイタルサインの見方読み方マニュアル作成(主な特変に大使見本的な対応を学ぶ)	6ヶ月
2	33	重度化した場合や終末期のあり方についての理解が少ないと思われる。	看取り等に関する指針を定め、本人・ご家族がより安心できる事業所づくりを進めていく。	看取り等に関する指針をきちんと定め、全員が共有し、できるだけ早い時期から、ご本人・ご家族へ説明し話し合いの機会を作っていく。	6ヶ月
3	36	関わりが長くなるにつれ、つつい馴れあいの話し方、接し方になってしまっている。	利用者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけを継続していく。	事業所での研修や外部での接遇研修等を実施、参加し、また定期的に自己点検を実施していく。	6ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。